

離れて分かる? 地元の魅力

叡啓大学生祭で 学生・社会人討論



広島からの人口流出について意見を交わす
叡啓大の学生や社会人

大学生や社会人が広島からの人口流出について話し合う討論会が13日、県立叡啓大(広島市中区)であった。学生祭の一環で実行委員会が企画。16

人が意見を交わした。広島市内で生まれ育つたNPO法人ひろしまジュン大学の平尾順平代表理事(48)は市内の大学を卒業後、県外で働いた経験

を踏まえ「離れることで地元の魅力が分かった。1度外に出ることも大事」と強調。将来的に帰りたくなるような広島にすることが必要とし

た。

叡啓大4年の藤原寿美さん(22)「福山市は、東京の企業での長期インターンシップを通じて「人生を俯瞰できるようなになった」と説明。地元で就職したいと福山市内で就職を決めるきっかけになったという。その他、進学や就職で県外へ出る

人が周囲に多いという声や、離れて暮らしていても広島好きな人が目立つといった意見もあった。討論会は、総務省の2023年の人口移動報告で、広島県の転出超過数が3年連続で全国最多となったのを受けて催した。叡啓大2年で学生祭

実行委の杉浦日向子委員長(20)は「若者が県外に出ることが必ずしも悪いとは言えない。さまざま価値観の議論ができた」と話していた。

(口元淳夫)